

## 二十歳の誓い

私は20年前、ごく普通の家庭に生を受けました。ですが、すぐに人生のターニングポイントを迎えることになったのです。生後一週間のとき、母がくも膜下出血という病に侵され、一命はとりとめたものの障害をもつようになり、赤ちゃんの時から母と離れて暮らすことを余儀なくされました。それからは祖父母に育てられましたが、私にとって祖父母は、実の親のような大切な存在でした。大好きだった祖父は、私が高校二年生の時に他界しましたが、祖父と交わした約束が二つありました。一つ目は「立派な成人になる」ということ。私の成人式を一番楽しみにしてくれていたのです、今日この場に立ってこうして話しているのを喜んでくれていると思います。

そして二つ目は、「アナウンサーになること」です。

私は中学生の頃、いじめにあっていました。当時の私は苦しくて目立たないように息を潜めて生きていました。そんなある日の朝、テレビを見ていた時、ボソッと呟いたのです。「アナウンサーの人は自分の言葉で表現するのが仕事で、キラキラしていてもうらやましいな」と。そのとき祖父は「努力すれば美智でもなれるよ。」と言ってくれたのです。それからの私は祖父の一言で「アナウンサーになる！」という夢を持って前へ進みだすことで、いじめを気にしないように少しずつ思えるようになりました。

高校に入学してからはダメなところは叱ってくれて、自分に自信がなかった私に自信をもたせてくれるかけがえのない親友に出会い、「自分らしく生きて行こう」と思うことができました。

今、私は自分のことが好きです。これまでを振り返って思うことは、自分が生きてきた状況が悪かったからと、環境や人のせいにして自分を甘やかしているうちは「自分に自信が持てない」ということです。いじめに関しても確かに死にたくなるほど苦しみましたが、自分のやりたいことを見つけ、気持ちの持ちようで人の意地悪なエネルギーをかわしていたように思います。

言葉によって傷つけられ、自信を失っていた私が、祖父や友人の言葉で勇気づけられ、夢を持てたり、自信を取り戻すことができました。今までの私は守られる側の人間でしたが、これからは誰かのためになる人生を歩んで行きたいと思っています。この決意と感謝の気持ちを忘れずにこれからの人生を歩んでいくことを「二十歳の誓い」といたします。

今日は私たちのためにこのように盛大な式典を開催いただきまして本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

平成29年1月9日 新成人代表 東山 美智